

先生・お薦めの一冊

鹿児島中央高校生必読の書

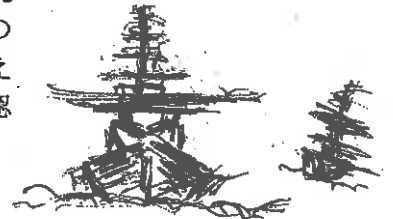
## 『坂の上の雲』 司馬遼太郎 著 (文藝春秋)

体育科 常盤 篤史 先生

私がこの作品に出会ったのは、高校一年の時である。きっかけは母校の校訓を書いた人物に興味を持ったからである。歴史好きな父に尋ねると、「これを読めばわかる」と言って本棚から八冊の文庫本を手渡してくれた。読み終えて以来その人物は、私の中で「英雄」として不動の地位を占め続けている。

私は鹿児島中央高校の校内で、その「英雄」にまつわるものを二つ発見した。一つは化学実験室入口の壁に埋め込まれたプレート。ほとんどの鹿児島中央高校生は（おそらく先生方も）、このプレートの存在すら知らない。しかし作品の舞台になった頃の日本では、プレートの四字熟語を知らない人はいなかったはずだ。『坂の上の雲』はその理由を明らかにしてくれる。

もう一つは生徒指導室の壁に掲げられた揮毫である。これは「英雄」がおこなった演説の原稿であり、結びの一文は世界的にも有名である。なぜ多くの人々が心を揺さぶられるのか、鹿児島中央高校生に残されたメッセージとは何なのか、この作品を読んで一度は考えてから卒業していつてほしい。そして、校内のプレートや揮毫を自分たちの目で確認してほしい。



### 平成30年は明治維新から150年の記念の年です！

鹿児島中央高校は、明治維新の立役者を数多く搬出した加治屋町にあり、校舎は東郷平八郎誕生の地に建っています。西郷隆盛・大久保利通・大山巖など日本を近代国家へと導いた人々が生まれた加治屋町は、下級武士の暮らす町でした。明日の日本を憂える血気盛んな若者たちのエネルギーが溢れている町でもありました。薩摩藩独自の年長者が年少者を指導する郷中教育という縦割り教育で、加治屋町の若者たちは西郷らを中心に、高い志を持って行動していました。「困難にあつたら、あれこれ考えずに、とにかく行動しろ」という郷中教育の教えの通り、加治屋町の若者たちは日本を変えようと立ち上がったのでした。

#### 本に描かれる幕末の薩摩



\*・・・東郷というのは、大久保や西郷とおなじ甲突川のそばの七十戸あまりの町内に生まれた青年で、大久保も西郷も東郷が赤ん坊のときから知っていた・・・。

『飛ぶが如く(一)』司馬遼太郎著 文春文庫 P178より抜粋

\*・・・大山の家のむかいから五軒むこうに東郷平八郎という青年の家があった。東郷は少年のころ西郷の家へ毎日きて隆盛の末弟の小兵衛から素読をならった・・・。

『飛ぶが如く(一)』司馬遼太郎著 文春文庫 P212より抜粋

\*・・・ついでながら薩摩の武士道徳においては無学も恥とするに足りなかった。戦国以来江戸期を通じて薩摩藩でもっとも高貴とされてきた人間の価値はいさぎよさと勇敢と弱者に対する憐れみという三つで、武士の学問などはほどほどでよいとされていた・・・。

『飛ぶが如く(一)』司馬遼太郎著 文春文庫 P148より抜粋

\*・・・潔さと勇敢さ、弱者へのいたわりといった寛容に通じるすべてを、身をもって知らしめ養うもので、学問よりこの三つが薩摩藩ではなにより尊ばれた・・・。

『日本人は何を失ったのか』加来耕三著 講談社 P60より抜粋

# 10月のクラス別貸出統計 204冊

4月の総貸出冊数 844冊      5月の総貸出冊数 311冊      6月の総貸出冊数 454冊  
 7月の総貸出冊数 235冊      8月の総貸出冊数 64冊      9月の総貸出冊数 179冊

学年組	1年								2年								3年							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
貸出数	5	4	4	3	23	12	27	0	2	6	0	10	37	9	8	2	6	14	2	6	4	2	3	15
合計	78冊								74冊								52冊							

\*模試や部活動の新人戦、10月も慌ただしく過ぎ去ってしまいました。11月もそろそろ終わりです。ゆっくり読書を楽しむ時間はありません。先月2年生には読書調査に協力してもらいました。10冊以上読んだ生徒は2名でした。しかし、1冊も読み終えなかったという不読者数は60%を超えるという残念な結果がでました。せめて月に1冊は読破する努力も必要ではないでしょうか。

## 新着図書紹介



\*『裏が、幸せ。』酒井順子 著 (小学館)

・これからの日本で輝くのは、日本海側らしい・・・。  
 日本海側の魅力をたっぷり紹介した紀行文です。思わず演歌を口ずさみたくなります。

\*『おやつ教本』坂田阿希子 著 (東京書籍)

・ロールケーキ、パンパロア、カステラ・・・大好きなお菓子が簡単に作れます。もちろんスイーツ男子にも簡単に作ることができるレシピがいっぱいです！

\*『コーチングとは「信じること」』生島淳 著 (文藝春秋)

・ラグビー日本代表エディー・ジョーンズとの対話集。にわかラグビーファンの皆さんもお読みください。



\*『自分を知るための社会学入門』岩本茂樹 著 (中央公論新社)

・一度しかない人生です。できれば、与えられた生を深く意味あるものとして味わいたいと願う人間の姿は、欲張りでなく当然だと私は思います。社会学がそのことに寄与する学問であると自負する私としては、少しでもみなさんに社会学を知っていただきたいのです。

～「はじめに」P3より抜粋～



### 小論文に出た！

第一学習社の資料によると、昨年度国公立大学入試の小論文頻出著者ランキング第1位は内田樹の12件じゃったそうじゃ。鹿児島中央高校図書館には20冊の内田樹の著作があっど！第2位の平田オリザの『わかりあえないこと』は8校で出題されたそうじゃが、この本もあっど！1・2年生も早めに評論文を読む訓練をせんといかん！読まんと思けんからな。

### 編集後記

地球の温暖化を実感する気候に、将来への不安を感じる今日この頃です。体育科の常盤先生にお書き頂いた熱き思い、きっと皆さんに伝わったことでしょう。本校に残された「英雄」の足跡を探してみましよう！

廊下に貼られた「センター試験まで〇〇日」。緊張が伝わってきます。3年生の皆さん、風邪などひかれませんように！1・2年生の皆さん、もっともっと本を読みましよう！